

## 【政治・経済】

お金：古いものではない、使い始めてまだ日が経っていない。

1500 年程前からお金らしきものが流通し始めた。(702 年：和同開珎)

↓

お金が必要なかった時代の方が長い。

原始時代：お金を流通させる余裕が無かった。非常に厳しい自給自足の世界。

助け合うために集団になる。(狩りなど) → 獲物を均等に分ける。

→ 運命共同体であり、貧富の差は無かった。(一人では生きていけない)

現代では

(1) . 業績に応じて給料を貰う (= 成果主義) : 若者に支持される。

(2) . 年齢に応じて給料を貰う (= 年功型) : 年配者に支持される。

今までの日本は年功型であったが、アメリカは成果主義であった。

日本で成果主義をとった初の企業は富士通である。

欲しい物を得る方法として、古くから物々交換というものがあった。

しかし、物々交換は成立する確率が 25% しかないため原始時代の人達にとって交渉不成立は自分の死を早める重大な問題であった。

↳ 相手の持っている物が欲しくないため。

それをどうやって解決するか？ → お互い欲しい物を持ってくる。

いつでも、みんなが、欲しがるもの = (美しさ、丈夫さ、稀少さ) を兼ね備えた金。

金 (Gold) は物々交換に非常に有効であり、金が Money の元である。

金を溶かして型にはめ金貨を作り、より長く生きられるように工夫した。

原始時代：皆貧しく、富は無かった。貧富の差が無い、平等社会。

皆で必死になって獲得できるものを皆で分けたらカツカツなので、独り占めしようなんてことは無理であった。

古代：農耕が始まり、格差社会へと変化していく。

弥生時代の米作りが富を生んだ。

弥生時代初期は農業技術がまだまだ未発達のため生産量が低かった。

↳ 技術の進歩により、米を多く生産できるようになり、米が余った。(重要)

この余った生産物は一人で独占された。(例：卑弥呼、クフ王)

↓

富を持った権力者ができた。(富を持つと、力を持つようになる)

↓

被支配者ができた。(格差社会へ)

権力者はどうやって富を貯めるのか？ → 金銀財宝に換える。(腐らない)

お金、一万円の価値はお金以外ない。

↳ 取引の仲立ち。

金貨：江戸時代 大判、小判（純金）

↳ ブームが過ぎた後の寂しさのようなものがない。

しかし、現在は金貨から紙幣に変わっている。(意図的な変更) なぜか？

金貨：重く、固くてかさばり、輸送の時に狙われやすい。

紙幣：軽く、持ち運びしやすく、狙われにくい。

だが、紙幣は金貨を使ってきた人にとって信頼性が無い。

どうやって金貨一万円分と一万円札を同じ価値だと証明するのか？

兌換紙幣・・・中央銀行に持っていくと兌換紙幣に記載された価値と同じだけの価値の金と交換できる。(=金の裏付けがあり、安心して使うことができる。)

中央銀行：日本；日本銀行

アメリカ；連邦準備制度理事会

イギリス；イングランド銀行

しかし、私達が現在使っている紙幣は兌換できない。→不兌換紙幣（不換紙幣）

↳ 金の裏付けは無く、不安定。

物の値段はどうやって決まるのか？

物を作るのにかかる費用の多さ（原材料費など）によって決まる。

一万円を作るのにかかる費用：24 円程度

一円玉を作るのにかかる費用：2 円程度

↳ それぞれ価値が違う。

ではなぜ不兌換紙幣は使われるのか？

→信用によって使われている。

↳ なぜ一万円を一万円の価値として使用しているのか？

↳ 昔から大事なものを教えられてきたから。

兌換→不兌換と変わっても気づかなかった。

皆、お金が欲しい。→ではなぜたくさん作りバラまかないのか？

↳ インフレーションが起きるから。

・ ほとんどの商品の値段が、一定期間継続して上がる。

→生活の質は変わらず混乱が起こる。

そのようなことを防ぐため、政府は不兌換紙幣を管理している。

金本位制・・・兌換紙幣を使っている国の通貨制度。（金に基づく）

↑

管理通貨制度・・・不兌換紙幣を使っている国の通貨制度。（金に基づかない）

兌換紙幣と不兌換紙幣にほとんど違いは無いが、日本経済が崩壊寸前時にはっきりとした違いが出る。

兌換紙幣なら金を得られる。（金の裏付けがあり、信頼できる。）

不兌換紙幣なら只の紙くずになってしまう。

なぜ金の裏付けのある兌換紙幣をやめて信用のない不兌換紙幣にしたのか？

→日本銀行（中央銀行）の保有する金の量に左右され制限を受けるため。

産業革命によって紙幣を多く発行しなければならなかったため。

我々：資本主義経済

↳ 儲けるため（から）に仕事を頑張る。

経済は活発になりやすい。

資本主義経済の特徴として、〇〇革命が起こる。

→産業革命：商品の大量生産が可能に。（売れるので作る）

従来の 100 個作っていた物に対して 100 個分の紙幣が必要だったが、  
産業革命により、1000 個作るようになり紙幣の数も 10 倍必要になった。

→紙幣が足りなくなると困るのでやむなく不兌換紙幣へと移行した。

↳ 信用がどんどん低く…

あるお金と別の国のお金を交換するときの比率は？

1 ドル=100 円、1 ドル=80 円：この変化は円高。

円高・・・円の価値が高くなったこと。（価値＝交換するドルの量で変わる。）

EU (European Union)：第三次世界大戦を起こさないために発足。

1800 年代の 19 世紀は金本位制。ヨーロッパ各国は自国の通貨を持っていた。

イギリス：ポンド，フランス：フラン，イタリア：リラ，ドイツ：マルク

為替・・・ある物とある物を交換させること。

レート・・・比率。

為替レート・・・（1 ドル=80 円などの比率？）

外国為替レート（相場）・・・外国のお金と交換するときの比率。

↳ 外国為替市場；外国と交換している場所。

金本位制当時、為替レートはどのように決まっていたのか。

↳ 同じ量の金がいくらで交換できるか。

1 ポンド=金貨 10g

1 ポンド= 5 フラン

1 フラン=金貨 2g

ならば、1 ポンド=10 リラ

1 リラ =金貨 1g

1 フラン= 2 リラ

上記のような、きちんとした為替相場が一定で 金本位制との繋がりがある相場

→固定為替相場制という。

第一次世界大戦後、金本位制を止め不兌換紙幣へ移行する。(混乱へ)  
混乱の中、第二次世界大戦後 新しい通貨制度を考える。(金本位制×)

↳ どうやって新しいレートを作り安定させるか。

↓ 固定為替相場制が復活 (金だけを基にしていない。)

30 年後：現在の変動為替相場制に変更。

↳ 固定為替相場制の復活を願う声もあるが目処はない。

固定為替相場制が復活した時、1 ドル＝何円だったか？ (1949 年)

→1 ドル＝360 円・・・根拠は無く、アメリカの独断。円安。

円を生み出した時 (明治維新：1800 年代)、1 円は何ドルに固定されたか。

→1 ドル＝1 円。少し後に 2 円に変更。

1 ドル：360 円期

外国製品：高すぎる。

日本製品：売れまくる。(モノが現在の 1/3 の価格)

→高度経済成長期 (固定為替相場制)

Panasonic：自動車部品、オール家電などに軸足を移す。

リストラ、給料減、白物から手をひくことにより黒字化。

我々の生活は日本商品、海外商品は関係ない。

かつての日本と中国の貿易→最新技術を伝えてもらえる重要な貿易だった。

ドイツ：マルク (兌換紙幣)、第一次世界大戦前：金本位制←国内の通貨制度。

↓外国との貿易において他国と自国の通貨の交換比率 (為替レート) は？

金 (世界共通の価値の基準になりうるもの、唯一の代物) を使ってレート設定。

第一次世界大戦後：兌換紙幣→不兌換紙幣へ変更

不兌換紙幣→金を基にした為替レートの設定ができないため第二終まで混乱へ。

混乱：ヒトラー誕生の基。遅れた日本、ドイツは列強の経済圏、世界市場に入れないので力づくで領土を奪い取ろうとした。為替レートの不安定。

↓

安定した国際通貨制度 (金、兌換紙幣 ×) を求めた。

↓

ブレトンウッズ協定によってブレトンウッズ体制を用意した。

↳ 第二次世界大戦後の通貨制度をつくった。

金 1g=2 ポンド

=4 フラン

=5 リラ

といった様に金本位制の基では為替レートは自動的に設定できたので安定した。

↓その金が使えなくなった…。

金に代わる各国と交換できるものを用意する。

↳ 世界各国の通貨の通貨 BOSS

BOSS はなにか？ =ドル。

ドルを軸にして各国の為替レートが設定されていった。

↳ 基軸通貨（1 ドル=1g 的な）、ドルに対する為替レートによって国際通貨制度を安定的にまわしていく。（ブレトンウッズ体制の基本）

基軸通貨の POSITION はオイシイ、皆やりたい。（戦争に勝った国がなりやすい）

では、なぜドル（アメリカ）が基軸通貨になったのか？

↳ 信頼されているから。

なぜドルは信頼されていたのか？

↳ ドルは各国に対して、金 1 オンス (28g) = 35 ドルで交換を保証したため。  
国内では不兌換、国外では兌換紙幣として使用した。

アメリカは金をたくさん持っていたために基軸通貨をドルにできた。

1950 年頃、アメリカ：金の保有量全世界の 6～7 割。

↳ これがドルの信用。交換できることを証明。

しかし、1970 年頃には 2～3 割にまで減少。

金本位制からの大きな脱出はできなかった。

固定から変動へ変わったがなぜ安定した国際通貨制度を維持できなかったか。